

工夫と効果の検証一覧

■実施による工夫

- ① 当日リハーサルだけではなく、ルームを使ったリハーサルを当日までに行う。
- ② 卒業生からのメッセージを 5 分にし、卒業生には 3 分ほどと伝える。
- ③ 依頼事項に「卒業生囲む会」までのアテンド依頼をかける。

■得られる効果

- ① 当日のリハーサルだけでなく、他にもリハーサルを設けることで当日のミスを減らし、タイムロスを少なくし、当日のリハーサルの時間の短縮を行う。
- ② 例年の予定時間を超過する方がいますので、余裕のある時間をとることで例会時間が超過することがなくなります。
- ③ 依頼事項に記載することで暗黙のルールだったところを明確化し、卒業生の持ち物になる、お花やプレゼントを各委員会で対処してもらう。

【検証】

- ① 前もってリハーサル用の進行表を作成してリハーサルに臨んだため、短い時間でも順調に進めることができ、当日の開会までの時間も余裕をもつことができた。会場使用の時間の制約から、全体通してのリハーサルが難しくなっているので、リハーサルをどのように進めるかという想定もするとよい。
- ② 卒業式はほぼ時間内に終了した。例会を通して 3 分間スピーチ開始までの時間ロス以外はスケジュール通りに進めることができた。事前の案内をすることで、卒業生にも時間のことを意識して話してもらい、予定通りに進行することができたと考える
- ③ 会場の都ホテルさんにお花を預かってもらうことなく全て会員で運搬することができた。各委員会への依頼ということで、どのようにすればいいか曖昧だったことを「見える化」することができた。円滑に動けたことで、卒業生を囲む会までの時間も卒業生と交流でき、素晴らしい時間の共有ができたと考えます。